中原街道と景勝地洗足池

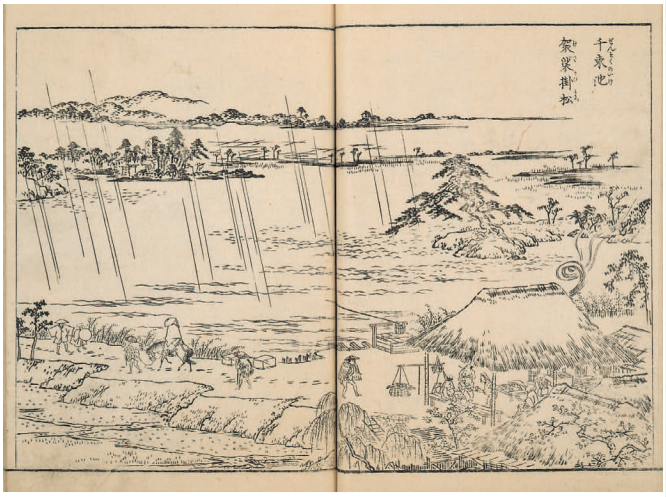
名勝洗足池公園-⑥

所在地：都名勝洗足池公園（南千束2-1-4他）

交通アクセス：東急池上線洗足池駅から徒歩１分

公開の有無：常時公開（寺社・公共施設を除く）

洗足池が全国的に有名になったのは、江戸時代に中原街道が江戸と平塚中原をつなぐ東海道の脇街道として多数の庶民や商人に利用されるようになってからです。当時はとくに農産物の運搬に利用されました。



「千東池袈裟掛松」『江戸名所図会』
（郷土博物館蔵）

「千東の池袈裟懸松」
『名所江戸百景』
（郷土博物館蔵）

そのうち景勝地として多くの人々に知られるようになり、複数の伝承とともに名所の一つとして多くの地誌や紀行文、浮世絵にもとりあげられました。とくに天保７年（1836）刊行の『江戸名所図会』「千束池袈裟掛松」や安政３年（1856）刊行の歌川広重『名所江戸百景』「千束の池袈裟懸松」が有名です。

また、プロイセン王国の全権使節オイレンブルクは日記『日本滞在記』（安政４年[1857]）のなかで「（洗足池のほとりには）田舎風の茶店が二つ三つ、水の中に突き出て建てられているのは美しく、水には緑の木の梢がどの角度からも映って見える。この場所は実に愛すべき平和なものだったので、われわれはしばしば遠乗りの行先と決めたものだった」と記しており、洗足池の景観が当時から風光明媚であったことがわかります。

一方で、中原街道の沼部・石川・千束（いずれも旧村名）付近は急坂が多く、交通の難所となっていました。そこで大正６～12年（1917～23）に工事が実施され、その完了を記念して建立された「中原街道改修碑」が、洗足池の中原街道沿いに建っています。

昭和２年（1927）には洗足池ボート場が運営開始され、チンカラ園（昭和25年ころ閉鎖）という日本最古の有料遊園地が開園するなど行楽地として賑わいました。現在も、ボート乗り場をはじめ、公園全体を多くの来園者が憩いの場として利用しています。

中原街道改修碑